

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
物理学実験 I Physics Experiment I		情報メディア学科	1年次 2年次	平成30年度 前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実験	1		吉村 洋輔	
概要				
<p>物理領域における、いろいろな力、音と振動、光の性質について、基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 物理領域における基礎的・基本的事項を理解し、科学的なもの見方・考え方を身につける。  (2) 実験を通して学習した内容の理解を深めるとともに、機器の操作方法や実験値の処理の仕方を習得する。  (3) 中学校教諭としての資質・能力を身につける。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 密度、比重の測定 ー固体、液体、気体ー</li> <li>2 浮力の測定とアルキメデスの原理</li> <li>3 力と道具の活用</li> <li>4 てこの実験とてこの活用・応用</li> <li>5 車軸、滑車の実験とそれらの活用</li> <li>6 音の性質</li> <li>7 単振動の理論と実験</li> <li>8 弦の振動、音の理論と実験</li> <li>9 気柱の共鳴の理論と実験</li> <li>10 光の性質とレンズ 1</li> <li>11 光の性質とレンズ 2</li> <li>12 光の反射、屈折の理論と実験</li> <li>13 光の干渉、偏向の理論と実験</li> <li>14 光の波長の理論と実験</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
成績評価 方 法	定期試験（知識・理解）50%、授業への取り組み（意欲）30%、 レポート点（関心・意欲・表現）20%の総合評価			
テキストおよび 参 考 文 献	作成プリントを使用			
メ ッ セ ー ジ な ど	日常生活でよく出会う物理事象を扱い、実験を通して科学的なもの見方・ 考え方が楽しく学べる授業にする。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
生物学実験 I Biology Experiment I		情報メディア学科	1年次 2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実験	1		安藤 稔朗	
概要				
<p>中学校理科の「植物の生活と種類、動物の生活と種類、生物のつながり、地球と人間」で取り扱う観察・実験について学習し、教育現場で活用できる知識・技能を習得する。</p> <p>中学校の理科の生物分野において科学的なものの見方・考え方を培うための実験内容の理解を深めるとともに、それに伴っての実験技術を習得する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 生物の観察や実験の具体的な目標や着眼点などを説明できる。</p> <p>(2) 観察・実験をとおして手順・データの解析の仕方を習得する。</p> <p>(3) 中学校の教育現場で生物に興味や関心を持たせるような実験を工夫する。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>I. 顕微鏡を主とした実験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 顕微鏡の取り扱い方</li> <li>2 植物細胞と細胞含有物</li> <li>3 原形質流動</li> <li>4 細胞膜と浸透圧</li> <li>5 細胞分裂と染色体</li> <li>6 植物の組織</li> <li>7 植物の生殖</li> <li>8 実験動物の取り扱い方</li> <li>9 動物の組織</li> <li>10 動物の発生</li> <li>11 淡水産微小生物の観察</li> </ol> <p>II. 植物の構造の観察</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12 コケ植物</li> <li>13 シダ植物</li> <li>14 裸子植物・被子植物の花</li> <li>15 植物体の構造</li> </ol>				
成績評価 方 法	観察・実験への取り組み（関心・意欲・態度）20%、定期試験（知識・理解）60% レポート（思考力・判断力）20%			
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：安藤稔朗「生物学実験 I」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布			
メ ッ セ ー ジ な ど	実験中は、実技の修得のみに走りがちであるが、理論から離れないようにする。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別																														
教育原論 Principles of Education		情報メディア学科	1年次	前期																														
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員																															
講義	2		中原 隆																															
概要																																		
教育の根本的な理論について理解を図るとともに、生涯学習の考え方に立って、様々な教育課題について積極的に考えていこうとする態度を育成する。																																		
到達目標																																		
(1) 教育の意味、学校の由来、教育方法の歴史など教育の概要や教育理論について、具体的な資料を活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。 (2) 日本の学校教育について、歴史・目的・制度・法令・指導法等から多面的・多角的にとらえ、説明することができる。 (3) 教育について関心をもち、今日的な課題について、自分の考えや意見を述べることができる。																																		
授業内容とすすめ方																																		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 オリエンテーション</td> <td style="width: 30%;">&lt;教育原論とは何か&gt;</td> </tr> <tr> <td>2 人間と教育</td> <td>&lt;教育とは何か&gt;</td> </tr> <tr> <td>3 教育の歴史</td> <td>&lt;学校とは何か&gt;</td> </tr> <tr> <td>4 教育方法の歴史</td> <td>&lt;教育の先人に学ぶ&gt;</td> </tr> <tr> <td>5 教育の目的</td> <td>&lt;日本の教育&gt;</td> </tr> <tr> <td>6 学校教育と法規</td> <td>&lt;教育の法的根拠&gt;</td> </tr> <tr> <td>7 学校制度と教育行政</td> <td>&lt;学校制度の変遷と教育委員会の業務&gt;</td> </tr> <tr> <td>8 学校経営</td> <td>&lt;学校のしくみ&gt;</td> </tr> <tr> <td>9 学級経営①</td> <td>&lt;学級担任の妙味&gt;</td> </tr> <tr> <td>10 学級経営②</td> <td>&lt;学級担任の使命&gt;</td> </tr> <tr> <td>11 生徒指導の原理と方法</td> <td>&lt;積極的な生徒指導とは何か&gt;</td> </tr> <tr> <td>12 学習指導の原理と方法</td> <td>&lt;授業づくり入門&gt;</td> </tr> <tr> <td>13 教育評価</td> <td>&lt;教育評価とは何か&gt;</td> </tr> <tr> <td>14 家庭教育</td> <td>&lt;教育の原点&gt;</td> </tr> <tr> <td>15 社会教育</td> <td>&lt;人生80年時代の生き方&gt;</td> </tr> </table>					1 オリエンテーション	<教育原論とは何か>	2 人間と教育	<教育とは何か>	3 教育の歴史	<学校とは何か>	4 教育方法の歴史	<教育の先人に学ぶ>	5 教育の目的	<日本の教育>	6 学校教育と法規	<教育の法的根拠>	7 学校制度と教育行政	<学校制度の変遷と教育委員会の業務>	8 学校経営	<学校のしくみ>	9 学級経営①	<学級担任の妙味>	10 学級経営②	<学級担任の使命>	11 生徒指導の原理と方法	<積極的な生徒指導とは何か>	12 学習指導の原理と方法	<授業づくり入門>	13 教育評価	<教育評価とは何か>	14 家庭教育	<教育の原点>	15 社会教育	<人生80年時代の生き方>
1 オリエンテーション	<教育原論とは何か>																																	
2 人間と教育	<教育とは何か>																																	
3 教育の歴史	<学校とは何か>																																	
4 教育方法の歴史	<教育の先人に学ぶ>																																	
5 教育の目的	<日本の教育>																																	
6 学校教育と法規	<教育の法的根拠>																																	
7 学校制度と教育行政	<学校制度の変遷と教育委員会の業務>																																	
8 学校経営	<学校のしくみ>																																	
9 学級経営①	<学級担任の妙味>																																	
10 学級経営②	<学級担任の使命>																																	
11 生徒指導の原理と方法	<積極的な生徒指導とは何か>																																	
12 学習指導の原理と方法	<授業づくり入門>																																	
13 教育評価	<教育評価とは何か>																																	
14 家庭教育	<教育の原点>																																	
15 社会教育	<人生80年時代の生き方>																																	
成績評価 方 法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 定期試験（知識・理解、思考力・判断力・表現力）50%																																	
テキストおよび 参 考 文 献	講義要項、資料プリントはその都度配布																																	
メ ッ セ ー ジ な ど	教育の根本的な理論について、その概要を学びます。 おもしろくこともなき世をおもしろく……の精神で工夫して学びましょう。																																	

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
教育心理学 Educational Psychology		情報メディア学科	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2		福屋 いずみ	
概要				
<p>心理学の中でも教育分野に関連する内容を中心に説明をおこなう。学習・記憶・発達などの基本的な内容を学習するとともに学校内の様々事象・問題を心理学的視点について解説を行う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 人間の記憶・学習の基礎メカニズムを解説できるようになる。  (2) 主に児童期から青年期初期の発達と課題を説明することができる。  (3) 学校における様々な諸問題の現状を解説することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育心理学とは何か（ガイダンス）</li> <li>2 教育心理学の歴史</li> <li>3 学習理論について</li> <li>4 動機づけについて</li> <li>5 教育と発達について</li> <li>6 性格理論の理解</li> <li>7 記憶のメカニズム</li> <li>8 教師・生徒関係の理解</li> <li>9 学童期の発達課題</li> <li>10 児童・生徒の評価①相対評価・絶対評価について</li> <li>11 児童・生徒の評価②統計の基本について</li> <li>12 知能と学力</li> <li>13 教育現場でのカウンセリング的かわり</li> <li>14 学校で起こる様々な問題①（不登校・いじめ）</li> <li>15 学校で起こる様々な問題②（非行・その他）</li> </ol>				
成績評価 方	授業への取り組み・講義中の発表（関心・意欲・態度・表現力）50%、 筆記試験（知識・理解・思考力・判断力）50%			
テキストおよび 参考文献	授業時間時にプリント配布・参考文献はその都度紹介する			
メッセー ジ	小学校・中学校教諭免許状の必修科目です。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
青年心理学 Youth's Psychology		情報メディア学科	2年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2		福屋 いずみ	
概要				
青年期の特徴を説明するとともに青年期以降の人の発達について解説する。また乳幼児期から児童期についても主に自我・自己の発達という観点から振り返る。				
到達目標				
(1) 青年期の発達課題を説明できる。 (2) アイデンティティの発達と混乱の状態を説明できる。 (3) 青年期心理学の研究方法を実践できる。				
授業内容とすすめ方				
1 青年とは：オリエンテーション 2 乳幼児期から児童期間での発達① -乳児期- 3 乳幼児期から児童期間での発達② -幼児期- 4 乳幼児期から児童期間での発達③ -児童期- 5 子どもから大人へ -青年期へのつながり- 6 青年期とは 7 青年期の特徴 -危機説と平穏説- 8 青年期前期の危機と発達課題 9 青年期中期の危機と発達課題 10 青年期後期の危機と発達課題 11 青年期の発達課題とEriksonの理論について① -導入- 12 青年期の発達課題とEriksonの理論について② -結論- 13 アイデンティティとは 14 アイデンティティの発達 15 アイデンティティの測定				
成績評価 方 法	授業への取り組み・講義中の発表(関心・意欲・態度)50%、 レポート(知識・思考力・表現力)50%			
テキストおよび 参 考 文 献	授業時間時にプリント配布 参考文献：その都度紹介			
メ ッ セ ー ジ な ど				

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
中等教育課程論 Theory of Secondary Educational Course		情報メディア学科	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2		鈴木 隆子	
概要				
教育課程の意義・学習指導要領の理念や内容を理解することをとおして、中学校教育の目標や内容に対する認識を深め、教職の専門性を高める。				
到達目標				
(1) 教育課程の意義を理解し、学校教育における教育課程の実際を具体的に説明することができる。 (2) 教育課程における「学習指導要領」の基準性を理解し、「理科」の指導計画作成の実際を説明することができる。 (3) 各教科・特別な教科道徳、総合的な学習・特別活動の内容を理解し、編成と実施の概要を説明することができる。				
授業内容とすすめ方				
1 中等教育課程論でなにを学ぶか —教育課程とはなにか— 2 教育課程と学習指導要領 —学習指導要領の基準性— 3 学習指導要領の変遷と改訂 —10年に一度改訂の意義— 4 学習指導要領の改訂 —移行と改訂のポイント— 5 学習指導要領の構成と内容 —ラベリングから構成と内容の概要をつかむ— 6 学習指導要領の理念 —学習指導要領総則を読む— 7 学習指導要領の内容① —各教科・特別な教科道徳・教科外活動の概要— 8 学習指導要領の内容② —各教科「理科」を中心に— 9 教育課程編成と実施の実際 —カリキュラムマネジメントの視点から— 10 指導計画の作成・実施の実際① —コアカリキュラムの視点から— 11 指導計画の作成・実施の実際② —学習指導案の意義と基本的性格・実際— 12 学習指導要領と教科用図書 —教科用図書の意義と性格— 13 中学校理科教科用図書の比較研究 14 教育の今日的課題① —社会の変化に対応した教育— 15 教育の今日的課題②				
成績評価 方法	授業への取り組み（意欲・関心・態度）40%、定期試験（知識・理解）20%、小テスト・プレゼンテーション・レポート（表現・技能）40%			
テキストおよび 参考文献	テキスト 山口短期大学『中等教育課程論』 資料プリントはその都度配布			
メッセージ な	学校教育の中核をなす教育課程、その基準としての「学習指導要領」について学ぶことを通して、中学校教育・学習指導とはなにか、ということを考えてほしいと願っています。教職の必修です。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
理科教育法 Theory of Science Education		情報メディア学科	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2		坪郷 好夫	
概要				
<p>自然科学（物理・化学・生物・地学）の科学的概念をつくる上で大きな役割を演じた題材を取り上げて研究し、科学的思考力を養うとともに中学校の理科を指導するために必要な知識、技能を修得する。</p> <p>中学校理科の「植物の生活と種類、動物の生活と種類、生物のつながり、地球と人間」で取り扱う内容に立ち戻りながら、各論の基礎を重視し、客観的な事実を根拠にして理論を積み上げていけるようにする。</p>				
到達目標				
<p>(1) 中学校理科の目標を構造的にとらえ、教材研究の方法について、学習指導要領や教科書と関連させ、教材研究の方法が説明できる。</p> <p>(2) 中学校理科学習指導案を書いて、1コマ50分の模擬授業ができる。</p> <p>(3) 指導案検討会や授業検討会で、授業の本質をついた質問や意見が、発言できる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 科学の歴史</li> <li>3 現代の科学</li> <li>4 科学と教育</li> <li>5 理科教育の基本的考察</li> <li>6 理科の学習指導と興味</li> <li>7 理科の教育課程① ー物理・化学ー</li> <li>8 理科の教育課程② ー生物・地学ー</li> <li>9 理科の教育内容の構成① ー物理・化学ー</li> <li>10 理科の教育内容の構成② ー生物・地学ー</li> <li>11 理科の学習指導① ー物理分野から題材を取り上げるー</li> <li>12 理科の学習指導② ー化学分野から題材を取り上げるー</li> <li>13 理科の学習指導③ ー生物分野から題材を取り上げるー</li> <li>14 理科の学習指導④ ー地学分野から題材を取り上げるー</li> <li>15 模擬授業 ー指導法の検討ー</li> </ol>				
成績評価 方 法	授業への取り組み体制（関心・意欲・態度）40%、 レポートの評価（知識・理解）30%、 学習指導案（思考力・判断力・表現力）30%			
テキストおよび 参 考 文 献	講義要項、資料プリントはその都度配布 文部科学省「中学校学習指導要領 理科編」 中学校理科教科書（1年～3年 東京書籍）			
メッセー ジ な ど	教育実習に向けて、理科の授業づくりの基本を学びます。教育現場で適切に指導できるように、理科の学習指導案を書いて、模擬授業をする講座です。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
理科学外研修 Training of "Science" outside the College		情報メディア学科	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	2		和西 聡	
概要				
<p>小中学校の児童、生徒たちの理科離れが著しい。このような子供たちに理科の面白さや大切さを啓蒙してゆくことも理科教育に携わる者の役割である。「理科学外研修」はこのような主旨の元、学校の教室から出てさまざまな年齢の子供たちに接することにより理科教育の重要性を説くと共に教員として自らの能力を高めることを目的とする。</p>				
到達目標				
<p>(1) 児童・生徒に理科への興味を引き出すことができる。  (2) (将来の) 理科教員として生徒・児童に教材の内容を説明・指導ができる。  (3) (将来の) 理科教員として生徒の実習・実験をサポートすることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>1 オリエンテーション –実施計画について–  2 実習施設の研究および希望調査  3 研修に向けての心構え  4 実習施設での事前打ち合わせ  5 ～13 施設現場における実習（4日間）  14 実習レポートの提出・報告  15 まとめ 教育実習の体験談（一年生へ）</p> <p>〈実習内容〉  理科教育施設が行う「理科を通して自然科学に興味を持つ児童・生徒を育てる講習会」に講師の助手として参加する。一般公募の講師による理科教育のユニークなアプローチを通して理科教育について理解すると共に生徒・児童に接して教師としての資質を磨く。</p>				
成績評価 方 法	実習成績（実習先施設の評価）50%、実習ノート評価（指導内容の把握度と指導方法）40%、実習態度（取り組み方：実習先への訪問指導で評価）10%			
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト： 使用しない。 適宜プリントを配布			
メ ッ セ ー ジ な ど	中学校教諭理科免許状取得希望者の必修科目です。			



授業科目		対象学科・専攻	年次	期別																																													
進路指導の研究 Study of Career Consulting		情報メディア学科	2年次	前期																																													
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員																																														
講義	2		中原 隆																																														
概要																																																	
<p>小学校・中学校における進路指導の位置づけや発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を活用しながら、体系的に学ぶ。</p> <p>近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していくことになる。</p>																																																	
到達目標																																																	
<p>(1) 進路指導がキャリア教育として再構築されているわけを、時代や社会の変化からとらえ、説明できる。</p> <p>(2) 小・中学校における「各教科」「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の取組を、進路指導（キャリア教育）の観点から振り返り、その教育的価値を説明できる。</p> <p>(3) 自分自身の進路の足跡を見つめ直し、将来への展望を述べることができる。</p>																																																	
授業内容とすすめ方																																																	
<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>－進路指導とは何か－</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>これまでの進路指導</td> <td>－自分たちが受けてきた進路指導－</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>進路指導からキャリア教育へ</td> <td>－ニート・フリーター問題を考える－</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>キャリア教育の定義</td> <td>－キャリア教育とは何か－</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>進路指導とキャリア教育</td> <td>－両者の関係と法的根拠－</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>小・中学校の進路指導①</td> <td>－各教科での取組－</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>小・中学校の進路指導②</td> <td>－道徳での取組－</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>小・中学校の進路指導③</td> <td>－特別活動での取組①学級活動</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>小・中学校の進路指導④</td> <td>－特別活動での取組②学級活動</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>小・中学校の進路指導⑤</td> <td>－特別活動での取組③児童会・生徒会活動</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>小・中学校の進路指導⑥</td> <td>－特別活動での取組④学校行事</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>小・中学校の進路指導⑦</td> <td>－総合的な学習の時間での取組</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>高等学校の進路指導</td> <td>－高等学校のキャリア教育の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自己の進路決定</td> <td>－自分自身の進路選択の足跡を振り返り、将来を見つめる－</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>本講座を振り返って</td> <td>－学習評価と授業評価－</td> </tr> </table>					1	オリエンテーション	－進路指導とは何か－	2	これまでの進路指導	－自分たちが受けてきた進路指導－	3	進路指導からキャリア教育へ	－ニート・フリーター問題を考える－	4	キャリア教育の定義	－キャリア教育とは何か－	5	進路指導とキャリア教育	－両者の関係と法的根拠－	6	小・中学校の進路指導①	－各教科での取組－	7	小・中学校の進路指導②	－道徳での取組－	8	小・中学校の進路指導③	－特別活動での取組①学級活動	9	小・中学校の進路指導④	－特別活動での取組②学級活動	10	小・中学校の進路指導⑤	－特別活動での取組③児童会・生徒会活動	11	小・中学校の進路指導⑥	－特別活動での取組④学校行事	12	小・中学校の進路指導⑦	－総合的な学習の時間での取組	13	高等学校の進路指導	－高等学校のキャリア教育の現状と課題	14	自己の進路決定	－自分自身の進路選択の足跡を振り返り、将来を見つめる－	15	本講座を振り返って	－学習評価と授業評価－
1	オリエンテーション	－進路指導とは何か－																																															
2	これまでの進路指導	－自分たちが受けてきた進路指導－																																															
3	進路指導からキャリア教育へ	－ニート・フリーター問題を考える－																																															
4	キャリア教育の定義	－キャリア教育とは何か－																																															
5	進路指導とキャリア教育	－両者の関係と法的根拠－																																															
6	小・中学校の進路指導①	－各教科での取組－																																															
7	小・中学校の進路指導②	－道徳での取組－																																															
8	小・中学校の進路指導③	－特別活動での取組①学級活動																																															
9	小・中学校の進路指導④	－特別活動での取組②学級活動																																															
10	小・中学校の進路指導⑤	－特別活動での取組③児童会・生徒会活動																																															
11	小・中学校の進路指導⑥	－特別活動での取組④学校行事																																															
12	小・中学校の進路指導⑦	－総合的な学習の時間での取組																																															
13	高等学校の進路指導	－高等学校のキャリア教育の現状と課題																																															
14	自己の進路決定	－自分自身の進路選択の足跡を振り返り、将来を見つめる－																																															
15	本講座を振り返って	－学習評価と授業評価－																																															
成績評価 方 法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、定期試験（知識・理解）30%、課題・レポート（思考力・判断力・表現力）20%																																																
テキストおよび 参 考 文 献	講義要項、資料プリントはその都度配布																																																
メ ッ セ ー ジ な ど	社会の変化で就職が大変厳しい時代となりました。そういう時代の進路選択について、自分自身のキャリア発達を見つめながら学んでいきましょう。																																																

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
ボランティア実習 Volunteer Practice		情報メディア学科	1年次 2年次	1年次後期 2年次前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	2		寺本 公思・手島 史子・村上 芳明	
概要				
<p>1年後期と2年前期の授業である。  この「ボランティア実習」の授業は、「介護等体験の実習の研究」ということである。  この授業では、「教師」という職業の「資質能力」について言及しながら具体的な内容に迫っていく。また、少なくとも、子どもたちとかかわるとき、子ども達に責任が持てる「人間性」ということを考える。</p>				
到達目標				
<p>(1) 教師の資質能力について意識することができる。  (2) 教師の資質能力を意識した子どもとの関わりのあり方について専門的に考えることができる。  (3) 「介護等体験実習」の目的を考慮し、自分の課題を導き出し、充実した実習ができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【1年次後期】		【2年次前期】		
1 オリエンテーション	寺本・手島	1 オリエンテーション	寺本・手島	
2 介護等体験の実習のシステム	寺本・手島	2 介護等体験の実習希望者プロフィール等の記入及び実習日程の確認と留意事項	寺本	
3 教育免許取得するということを考える① ー目的・目標からー	手島	3 実習で学ぶこと・考えること	寺本	
4 教育免許取得するということを考える② ー内容からー	手島	4 車椅子の実技①（基本）	手島	
5 介護等体験の実習に出るまでの流れとかかわる人の仕事内容について	手島	5 車椅子の実技②（応用）	手島	
6 教師の「資質能力」について① ー言葉の概念から考えるー	寺本	6 実習日誌の書き方 ー意味と目標ー	寺本	
7 教師の「資質能力」について② ー法律から考えるー	寺本	7 実習日誌の書き方 ー内容ー	手島	
8 教師の「資質能力」について③ ー具体的事例から考えるー	手島	8 実習日誌の書き方 ー実際ー	手島	
9 教師の「資質能力」について④ ー教師の不祥事から考えるー	寺本	9 障害者・高齢者とのコミュニケーションの創造	手島	
10 2年次生『介護等体験』体験談	手島	10 自立を視野に入れた障害者・高齢者とのかかわり	寺本	
11 総合支援学校とは	寺本	11 日本における高齢者福祉の現状	手島	
12 総合支援学校での実習の留意点	寺本	12 日本における障害児教育の現状	手島	
13 社会福祉施設とは	手島	13 教員免許を持って現代社会を生きるということ	寺本	
14 社会福祉施設での介護等体験の実習の留意点	手島	14 自立について考える	寺本	
15 介護等体験の実習の心構え（まとめ）・希望調査	寺本・手島	15 まとめ	寺本・手島	
成績評価方法	授業時の発表（意欲・関心・態度・理解）20%、実習の日誌（思考力・判断力）30%、レポート（思考力・判断力）30%、実習（表現力・活動力）20%			
テキストおよび参考文献	授業時に指示			
メッセージなど	<p>教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えていって欲しい。  中学校教諭二種免許状：必修科目</p>			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
教育実習 Student Teaching		情報メディア学科	2年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	4		和西 聡	
概要				
<p>「教育実習の研究」等の科目で学んだ教育指導方法を中学校の教育現場で実践することが目的である。単に教科科目を教えることに留まらず、教えることを通して生徒たちの心を掴み、教師としての資質を培うことに意義がある。</p>				
到達目標				
<p>(1) 教育実習を通して、教育内容・方法について理解を深め、教育技術を活用できるようになる。  (2) 中学校理科の指導案を作成し授業を展開することができるようになる。  (3) 生徒理解に努め、生徒に対して愛情を持って接することができるようになる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>「教育実習の研究」の授業で培った「学習指導」、「生徒指導」を基に実施した模擬授業と中学校に出向いて実際の授業を観た「参観実習」をこの科目で実践に移す。  具体的には、中学校に出向いて中学校理科担当教員の指導のもとに、次の内容について実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 模擬授業で学習した教材研究、指導案作成などを実践に移す。</li> <li>2 中学校参観実習で得た中学校の教育現場の実際を体得する。</li> <li>3 学習してきた教職科目の全てを実践し、教員としての心構えを磨く。</li> <li>4 授業だけでなく、生徒指導、活動を通して生徒とのふれあいを体得する</li> <li>5 教育の職場としての学校における組織、対人関係について実践的に学ぶ。</li> </ol> <p>&lt;実施要領&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習先となる中学校を選定し、該当中学校の校長に「実習願い」を提出する。</li> <li>2 許諾されたら、実習日数と実習期日を話し合いの上決定する</li> <li>3 実習</li> <li>4 実習先中学校より評価を受ける。</li> </ol> <p>&lt;実習期間・時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先において異なるが4週間程度の教育実習を行う。</li> <li>・時期については実習先の中学校の都合による。</li> </ul>				
成績評価 方 法	実習成績(実習先の中学校の担当教員の評価)50%、実習ノート評価(目標、実践課程および結果)40%、実習態度(取り組み、生徒への対応等、実習先への訪問指導で評価)10%			
テキストおよび 参 考 文 献	「教育実習の手引き」山口短期大学			
メ ッ セ ー ジ な ど	中学校教諭理科免許状取得希望者の必修科目です。			